

令和6年度 夏季一般入学者選抜試験

小論文試験問題

注意事項

1. 開始の合図があるまで、開かないこと。
2. この問題冊子は7枚綴り、問題は片面に印刷されている。
3. この問題冊子は持ち帰ること。
4. 解答用紙は必ず提出すること。
5. この試験の問題は、ただ1つ特定の正解が存在することを前提とするものではない。また、解答者の思想・信条を問うものではない。

解答記入上の注意

1. 解答は、黒、青、ブルーブラックのボールペン（プラスチック製消しゴム等で消せないもの）又は万年筆で記入しなさい。
2. 解答は横書きにして、原則としてマス目に1字記入しなさい。
3. 加筆・訂正・削除は、その記入方法も含めて自由とする。ただし、修正液・消しゴムなどを使用してはならない。
4. 加筆・訂正・削除をした場合は、それらを含めて、完成後の答案が字数の制限内に収まるようにしなさい。
5. 読みやすい答案となるよう心掛けなさい。

問 題

次の文章は、萱野稔人『死刑 その哲学的考察』（ちくま新書、2017年）から抜粋した文章である。
これを読んで、以下の問いに解答しなさい。

（〔問1〕〔問2〕の配点割合は、4：6）。

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

著作権法により公開していません

〔問 1〕

下線部①「仮言命法」につき、この文章ではどのような意味内容をもつ概念として用いられているか。対立する概念を踏まえ、文中の言葉を使いつつ、600 字以上 800 字以内で説明しなさい。

〔問 2〕

下線部②「道徳の本来的な力」は、現代社会において例えばどのような場面で問題となると考えられるか。あなたが法曹の立場にあるとして、「道徳の本来的な力」を実現するためにどのような役割を果たせる(果たすべき)と考えるか。文章の趣旨を踏まえつつ、1000 字以上 1200 字以内で解答しなさい。

【解答作成上の留意点】

- I 本問は、解答者の思想や信条を問おうとするものではない。また、法知識の有無を問おうとするものでもない。
- II 〔問 1〕〔問 2〕は、それぞれ独立のものとみなして採点する。必要な場合には、他の解答欄に記述したことでも繰り返して記述しなさい。

【出題趣旨】

〔問 1〕は、長文読解力および表現力を問う問題である。この文章において「仮言命法」という語は、道徳を語る上で独特の意義をもつ。「定言命法」と対比し、文脈に即してそれら用語の内容を正確に把握しつつ、規定の文字数で簡潔に表現する能力が要求される。

〔問 2〕は、「道徳」とされるものが現代社会で現れる様を、時事問題を踏まえつつ説得的に説明してもらうことを意図している。例えば「AI に全てを委ねてはならない」「性自認は尊重されなければならない」といったことが道徳として捉えられるとして、それは文中の定言命法として位置づけられるものか。様々な「道徳」に思いを致してほしい。その上で、かかる道徳をどのように体現するか。法曹を目指す立場の視点から、具体的な対処方法を論理的に思考し、的確に表現する能力を評価することを狙いとしている。問題文の趣旨と無関係の問題を採り上げ、抽象的な対応を提示するにとどまる答案は、高評価につながるものではない。